

**平成31年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査結果**

熊本県教育委員会

I - 1 (1) 教科に関する調査 (県全体)

	【小学校】	
	国語	算数
全国	63.8%	66.6%
熊本県	65%	66%

	【中学校】		
	国語	数学	英語
全国	72.8%	59.8%	56.0%
熊本県	72%	58%	53%

■ 教科に関する本県の概要

- ・ 小学校では、国語は全国平均を上回っており、算数は全国平均とほぼ同じ状況にあります。
- ・ 中学校では、国語は全国平均とほぼ同じ状況にあり、数学と英語は全国平均を下回っています。

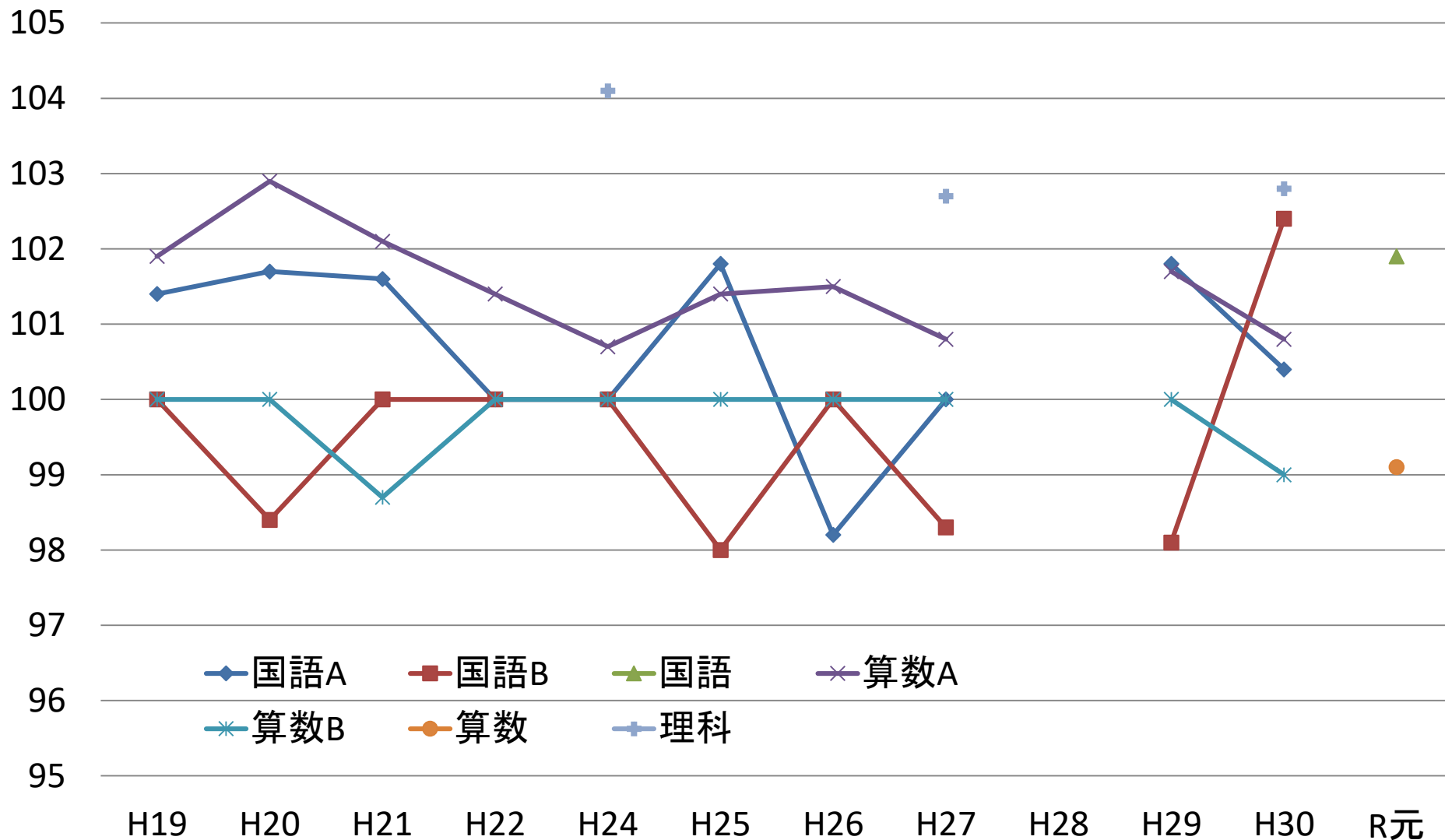
I - 1 (2) 教科に関する調査 (各管内等)

	【小学校】		【中学校】		
	国語	算数	国語	数学	英語
全国平均	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0
県平均	65	66	72	58	53
宇城	65	67	71	57	51
玉名	68	66	68	53	51
菊池	67	67	74	59	53
阿蘇	64	65	73	58	52
上益城	63	65	68	55	52
八代	66	67	68	54	50
芦北	65	63	72	59	54
球磨	64	65	71	58	49
天草	67	67	71	57	50
山鹿市	73	71	73	58	52
熊本市	63	65	72	58	55

数値は
平均正答率 (%)

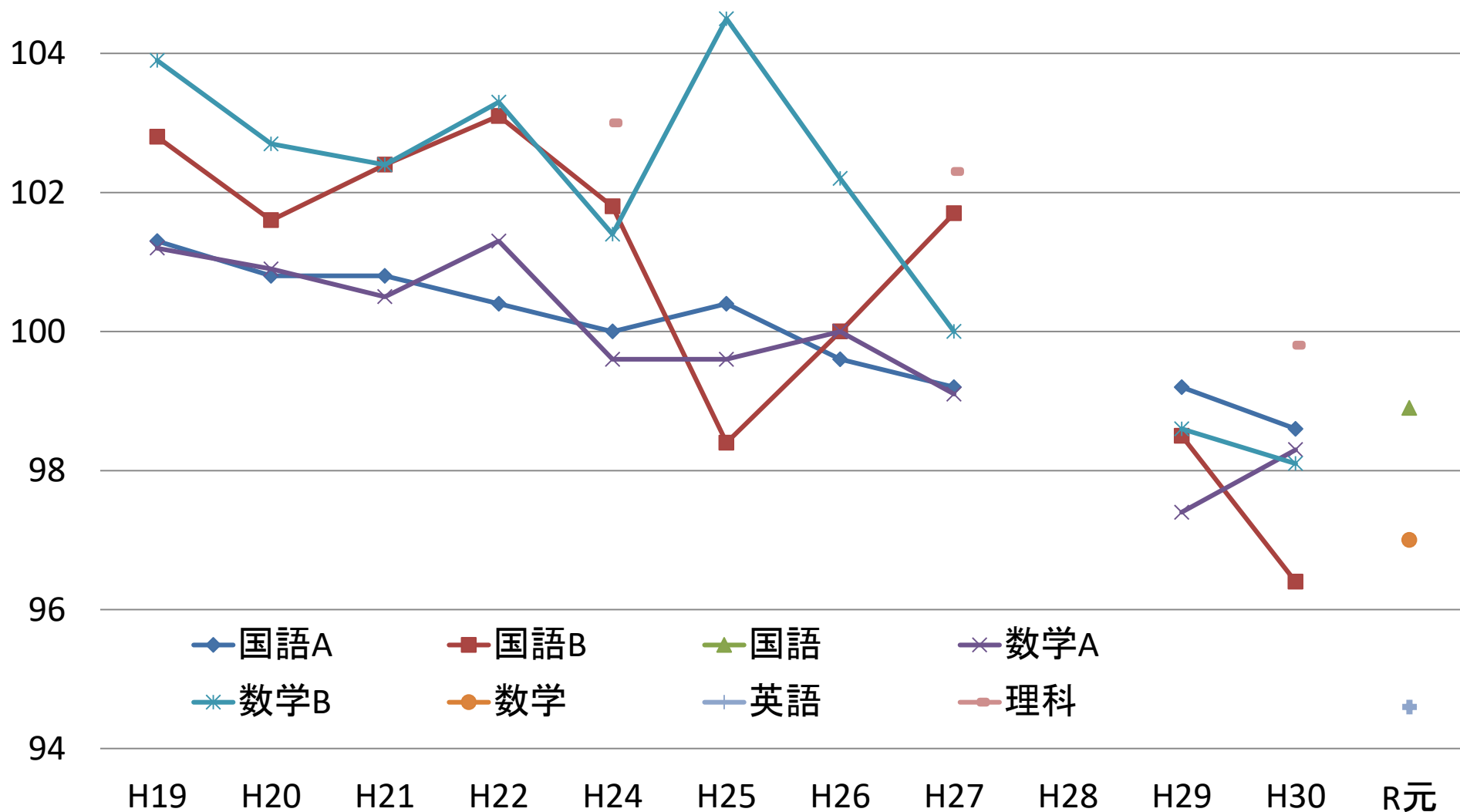
I-2(1) 教科に関する調査（過去の推移 小学校）

小学校の経年比較（全国平均を100としたときの県の推移）



I - 2 (2) 教科に関する調査 (過去の推移 中学校)

中学校の経年比較(全国平均を100としたときの県の推移)



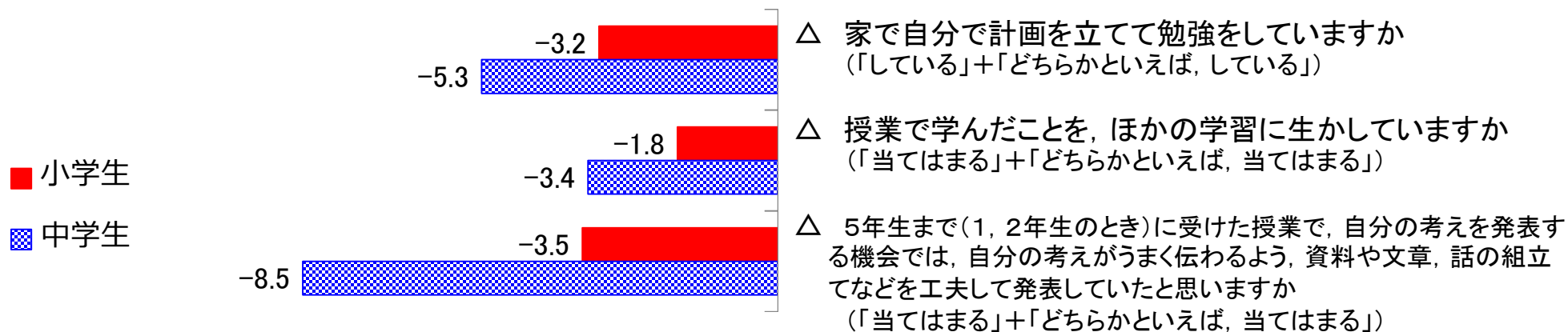
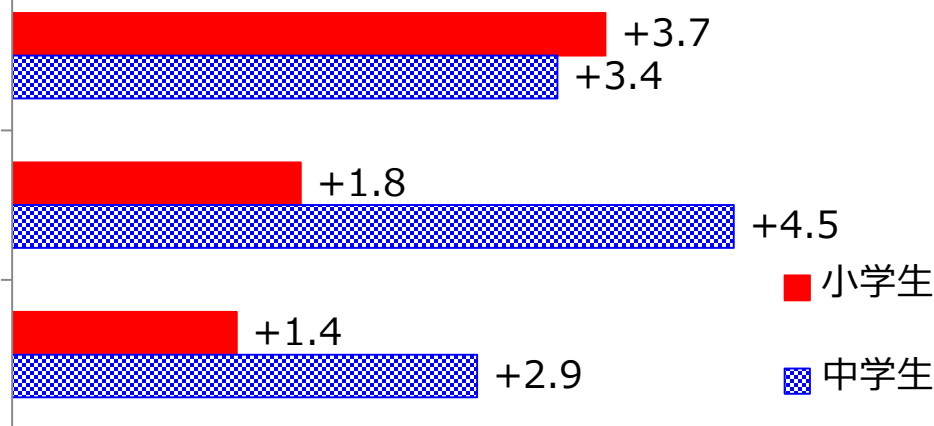
I - 3 児童生徒質問紙調査

熊本県の児童生徒は、「学校に行くのは楽しい」「ICTを活用したい」などの項目で、全国平均に比べて高い状況にあります。しかし、「自分で計画を立てて勉強しているか」「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしているか」などの項目では、全国平均を下回っています。

本県と全国との差が大きかった3項目

全国平均との差

- 学校に行くのは楽しいと思いますか
(「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」)
- 授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか
(「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」)
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」)



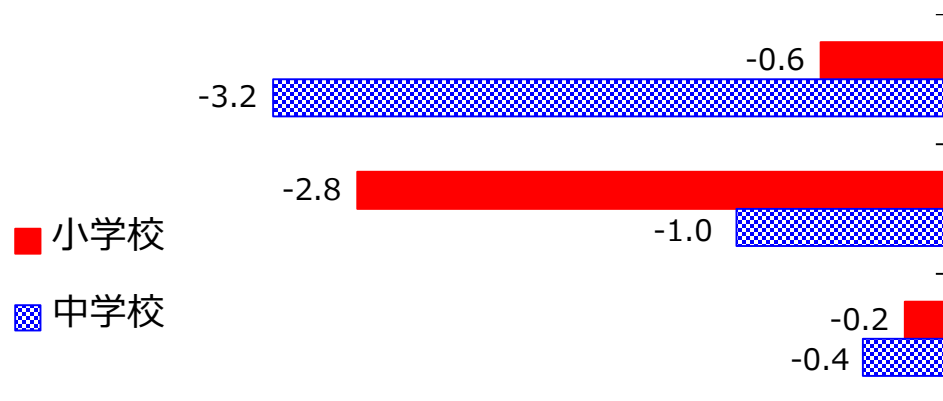
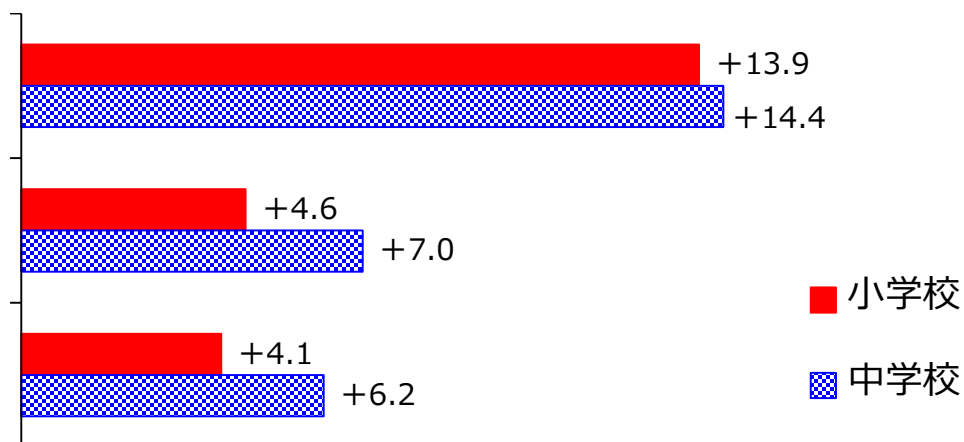
I - 4 学校質問紙調査

熊本県の小中学校は、「ICTの活用」「保護者や地域の人との協働による活動」「小中の合同研修」などの項目で、全国に比べ、実施回数が多い状況にあります。しかし、「全国学力・学習状況調査の事項の結果公表」「教育課程の趣旨の家庭や地域との共有」などの項目では、全国平均を下回っています。

本県と全国との差が大きかった3項目

全国平均との差

- 調査対象学年の児童生徒に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板など)などのICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか(「ほぼ毎日」+「週1回以上」)
- 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか(「よく行った」+「どちらかといえば、行った」)
- 前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか(「よく行った」+「どちらかといえば、行った」)



△ 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)(「よく行った」+「行った」)

△ 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか(「よくしている」+「どちらかといえば、している」)

△ 調査対象学年の児童生徒に対して、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか(「よく行った」+「どちらかといえば、行った」)

Ⅱ－１ 小学校国語

- (1) 成果と課題
- (2) 成果が見られた問題
- (3) 課題が見られた問題の分析
- (4) 今後の指導に当たって

Ⅱ-1 (1) 成果と課題

成果

小学校国語

課題

成果が見られた内容

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
【関連問題 1四(1)ア】
調査のたいしょう(対象)
本県52.8%, 全国41.9% 差+10.9
- 【関連問題 1四(1)イ】
友達にかぎらず(限らず)
本県73.3%, 全国69.4% 差+3.9
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと
【関連問題 2二】
本県89.8%, 全国88.5% 差+1.3
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめること
【関連問題 3三】
本県72.8%, 全国68.2% 差+4.6

課題が見られた内容

- 図表やグラフなどを用いた目的を捉えること
【関連問題 1一】
本県70.6%, 全国71.2% 差-0.6
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
【関連問題 1四(1)ウ】
かんしん(関心)をもってもらいたい
本県29.4%, 全国35.6% 差-6.2
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと
【関連問題 2一(1)】
本県79.9%, 全国80.7% 差-0.8
- 目的に応じて質問すること
【関連問題 3二】
本県66.1%, 全国67.4% 差-1.3

Ⅱ - 1 (2) 成果が見られた問題

小学校国語

成果が見られた問題 1

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすること。

- 1四(1)ア(本県52.8%, 全国41.9%, +10.9)
- 1四(1)イ(本県73.3%, 全国69.4%, +3.9)

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にイカきらず、多くの友達に伝え、公衆電話についてウかんしんをもってもらいたいと思います。

そこで、地いきの人三十人を調査の「ア」たいしょうとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。

高橋さんは、習っている漢字がひらがなになっているところがあることに気がつき、書き直すことにしました。
報告する文章【の部アからウのひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。

【誤答例】(20.7%)

- 「たい」を「対」と解答しているが、「しょう」を「象」、「照」と解答していないもの

成果が見られた問題 2

- 目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すこと。

- 3三(本県72.8%, 全国68.2%, +4.6)

- インタビューの様子【の大谷さんの発言から、言葉や文を取り上げて書くこと。
 - インタビューとしてふさわしい言葉づかいにすること。
 - 書き出しの言葉に続けて、三十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。
- 三岸さんは、インタビューの最後に、大谷さんの仕事への思いや考えに着目して、特に心に残ったことを伝えようとしています。インタビューの様子【のイに入る内容を、次の条件に合わせて書きみましょう。

特	に																					

※この原簿は書き用紙で、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※金の印から書きましょう。どちらの行を変えないで、続けて書きましょう。

【誤答例】(7.0%)

- 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの

小学校国語

課題

○ 目的に応じて、質問を工夫すること。

【誤答例】

- ・「2」と回答しているもの（県13.2%、全国11.7%）

課題となった問題

●3二(本県66.1%、全国67.4%、-1.3)

- 1 相手の思いをさらに引き出すために、相手がくり返し発言した言葉を用いながら質問をしている。
- 2 相手に質問をする理由を理解してもらえらるるよう、インタビューの目的を伝えてから質問をしている。
- 3 相手が答えやすいように、自分が知りたいことについて言葉をかえてもう一度質問をしている。
- 4 相手の話の中に分からない言葉があったため、その言葉の意味を確かめる質問をしている。

4 岸さんは、町の広報誌に取り上げられていた量職人の大谷さんを、学級の友達に紹介するために、大谷さんにインタビューをすることにしました。次は、「広報誌の記事」、「直接聞いてみたいこと」、「インタビューの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【インタビューの様子】の一部

大谷さん 量を作る技術やお客様への接し方は、とにかく親方の仕事ぶりをよく見ていました。

岸さん 大谷さんは、親方の姿をよく見て技術や接し方を身につけたんですね。

大谷さん いやいや、見るだけでは身につけられません。「習うより慣れよ」ということわざにもあるとおり、実際に自分でやってみることを何度もくり返すんです。私はほとんど不器用なので大変さはありましたが、何とか親方のようになりたいと思いますながら、修業をしていました。

岸さん そのような思いをもっていただけですね。大谷さんは、他に、どのような思いや考えをもって、五十年間仕事を続けてきたのですか。

大谷さん 思いや考えですか。なかなか難しい質問ですね。

岸さん すみません。では、五十年間仕事を続けてきた中で大切にしてきたことや心構えはありますか。

大谷さん そうですね。五十年も職人をしていいますが、いまだに完ぺきだと思える仕上げはありません。だからこそ、自分が一人前になったと思わず、次こそはもっとよいものを作ろうと挑戦し続けるのです。これが、ずっと大切にしてきましたことですね。

指導のポイント

- 話の展開に沿って、目的に応じた質問をすることについて
 - ・インタビューをする自分はどのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように活用しようとしているのかなどを明確にして聞くことが重要である。そのためには、あらかじめ用意した質問を予定した順序で聞くだけではなく、話の展開に沿って、目的に応じた質問をすることが必要となる。
- 具体的な指導について
 - ・「質問の仕方」を技能として学ぶだけではなく、「何のために、どのような情報を聞き出したいのか」といった目的を明確にしてインタビューに臨むことが重要である。児童の「知りたい」という思いを大切にすることで、主体的に自分の理解を相手に確認したり、相手の思いを引き出したりしようとするのが期待できる。

Ⅱ-1 (4) 今後の指導に当たって

学力調査結果の分析から明らかになった小学校国語科の課題改善のため
次の点に取り組みましょう。

課題が見られた内容

- 図表やグラフなどを用いた目的を捉えること。
- 学年別配当表に示されている漢字を分の中で正しく使うこと。
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと。
- 目的に応じて質問を工夫すること。

取組

授業の中で

- 自分の考えを書く際には、自分の考えの理由を明確にし、文章全体の構成に即して書くよう指導する。
- 児童が言語活動に必然性を感じることができる話題の設定や学習したことの成果を生かす場の設定を行う。
- 言語活動を行った成果を基に児童自身が身に付いたことを自覚できるような【振り返り】を行う。

日々の取組の中で

- 目的や必要に応じて資料を読み、自分の考えをまとめて書いたり話したりする活動を行う。
- 文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら正しく使う習慣を付けるようにする。

Ⅱ－２ 小学校算数

- (1) 成果と課題
- (2) 成果が見られた問題
- (3) 課題が見られた問題の分析
- (4) 今後の指導に当たって

Ⅱ-2 (1) 成果と課題

成果

小学校算数

課題

成果が見られた内容

- 示された面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述すること
【関連問題 1(3)】
本県45.5%, 全国43.9% 差+1.6
- 台形について理解していること
【関連問題 1(1)】
本県94.4%, 全国93.1% 差+1.3
- 示された計算の仕方を解釈し、かける数やわる数を選び、計算しやすい式にして計算すること
【関連問題 3(3)】
本県75.5%, 全国74.9% 差+0.6
- 場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断すること
【関連問題 4(3)】
本県63.2%, 全国62.6% 差+0.6

課題が見られた内容

- 資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述すること
【関連問題 2(3)】
本県49.4%, 全国52.1% 差-2.7
- 示された除法の式の意味を理解していること
【関連問題 3(4)】
本県44.8%, 全国47.0% 差-2.2
- 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述すること
【関連問題 3(2)】
本県29.0%, 全国31.1% 差-2.1
- 示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式すること
【関連問題 4(2)】
本県66.9%, 全国68.6% 差-1.7

小学校算数

成果が見られた問題 1

○ 示された面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述すること。

● 1(3) (本県45.5%, 全国43.9%, +1.6)

【ちひろさんの求め方】

$$5 \times 4 = 20$$

$$4 \times 2 \div 2 = 4$$

$$\underline{20 - 4} = 16 \quad \text{答え } 16 \text{ cm}^2$$

【ちひろさんの求め方】の中の「20-4」は、どのようなことを表していますか。「20」と「4」がどのような図形のアreasを表しているのかがわかるようにして、言葉や式を使って書きましょう。

※必要ならば、右の図1を使って考えてもかまいません。

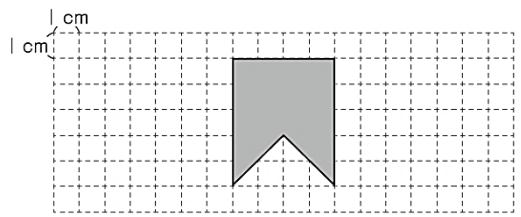


図1

【誤答例】(16.6%)

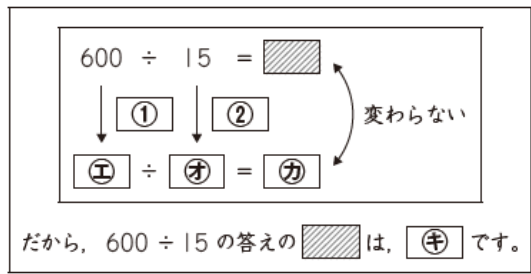
○「20」が長方形の面積、「4」が三角形の面積を表していることは、記述しているが、20-4が、長方形の面積から三角形の面積を取り去ることについて記述していない。

成果が見られた問題 2

○ 示された計算の仕方を解釈し、かける数やわる数を選び、計算しやすい式にして計算すること。

● 3(3) (本県75.5%, 全国74.9% +0.6)

【ことねさんの計算の仕方】をもとに、 $600 \div 15$ について考えます。



上の①にあてはまるものを、下の□の中から1つ選び、また、上の②にあてはまるものを、下の□の中から1つ選んで、それぞれ書きましょう。ただし、それぞれ、どれを選んでもかまいません。

① $\times 2, \div 3, \div 5$

② $\times 2, \div 3, \div 5$

【誤答例】(9.6%)

○被除数と除数に同じ数をかけたり割ったりすることは捉えているが、計算ができていなかったり、商が変わらないことを捉えていないことが考えられる。

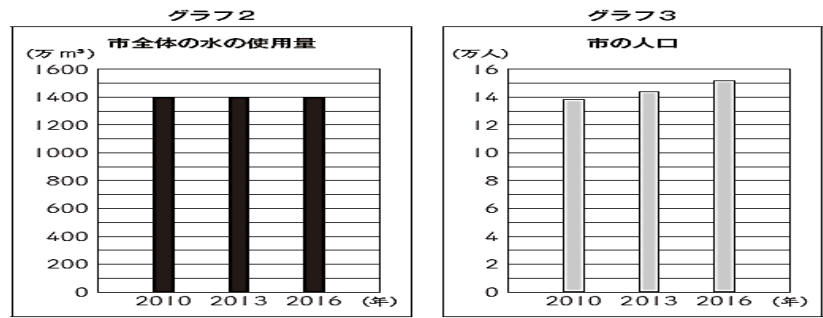
小学校算数

課題

○ 二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述すること。

課題となった問題

● 2(3)(本県49.4%, 全国52.1% -2.7)



2010年から2016年までの、3年ごとの1人あたりの水の使用量について、どのようなことがわかりますか。
 下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
 また、その番号を選んだわけを、グラフ2とグラフ3からわかることをもとに、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 1人あたりの水の使用量は、減っている。
- 2 1人あたりの水の使用量は、変わらない。
- 3 1人あたりの水の使用量は、増えている。
- 4 1人あたりの水の使用量は、増えたり減ったりしている。

【誤答例】
 ○2を選んでいる(25.7%)
 ○3を選んでいる(13.1%)
 ○4を選んでいる(3.6%)

指導のポイント

- 誤答について
 【誤答例】の2を選んでいる児童は、市全体の水の使用量が変わらないことから、一人当たりの水の使用量も変わらないと判断していると考えられる。
- 指導について
 - ・一人当たりの水の使用量はどのように求めることができるのかを確認するなどして、市全体の水の使用量と市の人口について、それぞれの資料の特徴や傾向を関連付けて考察する必要があることに気付くことができるようにすることが大切である。
 - ・その上で、ある量の水を2人で分ける場合よりも3人で分ける場合の方が一人分の水の量は減るといった簡単な場合を基に考えるなどして、市全体の水の使用量は変わらないことと市の人口は増えていることを関連付け、一人当たりの水の使用量が減っていることを判断することができるようにすることが大切である。
 - ・日頃から、一つの資料では判断できない事柄を、複数の資料から判断することができるようにすることが重要である。

Ⅱ－２（４） 今後の指導に当たって

学力調査結果の分析から明らかになった算数科の課題改善のため
次の点に取り組みましょう。

課題となった内容

- 複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄について判断すること
- 示された除法の式の意味を理解していること
- 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述すること
- 示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式すること

取組

授業の中で

- 算数的活動が数学的活動に変わった新学習指導要領の趣旨等を踏まえ、より一層、数学的活動の充実を図る。
- その際、言葉や式、図、表、グラフを用いて、筋道立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり他者を説得したりする活動を位置付ける。
- 算数科の育成を目指した資質・能力を明らかにし、他教科等における体験活動等と関連を図る。

日々の取組の中で

- 児童の実態に応じて、適宜練習の機会を設けたり、適切な反復による学習を位置付ける。
- 学習内容の定着を図るため、児童の学習意欲等に応じた家庭学習に取り組むよう、働きかけること。

Ⅲ－1 中学校国語

- (1) 成果と課題
- (2) 成果が見られた問題
- (3) 課題が見られた問題の分析
- (4) 今後の指導に当たって

Ⅲ－1（1） 成果と課題

成 果

中学校国語

課 題

成果が見られた内容

○文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつこと

【関連問題 1三】

本県91.4%，全国91.2% 差+0.2

○封筒の書き方を理解して書くこと

【関連問題 1四】

本県57.1%，全国56.8% 差+0.3

課題が見られた内容

○文章の構成や展開，表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと

【関連問題 1一】

本県61.8%，全国63.9% 差-2.1

○文章の展開に即して情報を整理し，内容を捉えること

【関連問題 1二】

本県59.0%，全国61.5% 差-2.5

○相手に分かりやすく伝わる表現について理解すること

【関連問題 2二】

本県68.4%，全国69.7% 差-1.3

○話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと

【関連問題 2三】

本県59.1%，全国60.4% 差-1.3

中学校国語

成果が見られた問題 1

○文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつこと。

● 1三 (本県91.4%, 全国91.2% 差+0.2)

みんなの短歌

今回は、新年度を迎えたフレッシュな心境を表現した作品が集まりました。

新しいノート教科書取り出して背筋伸ばして始まりを待つ
中一 内山 誠二

玄関の鏡の前でもう一度前髪笑顔ボタン笑顔と
中二 森川 りか

春風がいつもの道を駆け抜ける皆の足取り自然と軽く
中三 松田 花子

三 みんなの短歌に掲載されている内山さんの短歌、森川さんの短歌、松田さんの短歌の中から一首を選びどの短歌を選んでもおかまいません。その短歌を読んであなたが感じたことや考えたことを、【選者より】を参考にしながら、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 選んだ短歌の中の言葉を取り上げて、想像できる情景や心情を書くこと。

条件2 条件1で想像した内容について、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

【誤答例】(2.0%)

○条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの

成果が見られた問題 2

○封筒の書き方を理解して書くこと。

● 1四 (本県57.1%, 全国56.8% 差+0.3)

四 あなたは、声の広場への投稿を封筒で郵送しようとしています。【全国中学生新聞】に示されている投稿先の名前と住所を、次の条件1と条件2にしたがって、楷書でいねいに書きなさい。なお、自分の名前と住所は不要です。

条件1 封筒の書き方に注意して縦書きで書くこと。

条件2 投稿先は団体なので、様ではなく御中」と書くこと。

【誤答例】(17.8%)

○条件②、④を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの

中学校国語

課題となった問題

課題

○ 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること
【誤答例】

- ・一つまたは複数選択する中で、2も5も選択していないもの。
(県24.6%, 全国22.6%)

●1二(本県59.0%, 全国61.5%, -2.5)

- 1 インターネットを利用して、様々な国の弁当を取り寄せることができる。
- 2 主食、主菜、副菜などが収まっており、栄養バランスのよい食事をとることができる。
- 3 ボックスランチやカスクルトなどは異なり、戸外に持ち出して食べることができる。
- 4 いろいろな料理が詰められているので、食べ物風味を保つことができる。
- 5 様々なデザインの弁当箱があり、自分の好みのものを選ぶことができる。

全国中学生新聞 2019年(平成31年)4月14日(日曜日) 文化 6

海外に広がる弁当の魅力

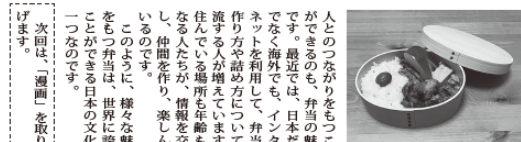


カスクルト

【シリーズ】再発見!
日本の文化

日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。例えば、「弁当(Bento)」、「漫画(Manga)」、「探偵(Detective)」、「盆栽(Bonsai)」、「折り紙(Origami)」は、英語やフランス語などの辞書に載っており、海外でも知られていることが分かります。本シリーズでは、この五つの日本の文化を取り上げ、五回にわたって、その魅力を紹介していきます。第一回は、「弁当」です。

「弁当」は、日本文化の代表格です。海外でも人気を博している「カスクルト」は、フランスの代表的な弁当です。カスクルトは、フランス語で「箱」を意味する「casque」と「食べる」を意味する「culte」から成り立っています。カスクルトは、フランスの食文化の象徴であり、海外でも人気を博しています。



曲げわっぱの弁当

「弁当」は、日本文化の代表格です。海外でも人気を博している「カスクルト」は、フランスの代表的な弁当です。カスクルトは、フランス語で「箱」を意味する「casque」と「食べる」を意味する「culte」から成り立っています。カスクルトは、フランスの食文化の象徴であり、海外でも人気を博しています。

指導のポイント

- 文章の展開に即して情報を整理し、内容を的確に理解することについて
 - ・説明、解説、論説などの説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開を捉え、内容を的確に理解するように指導することが大切である。その際、生徒自身が目的意識をもって文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導を工夫することが重要である。
- 具体的な指導について (H30年度【中学校】授業アイデア例」P.5~P.6より)

第1時

- ①学習の見通しをもつ。
- ②一つ目の問いを把握する。
「問いの例」動物の歯の化石を比較することでどのようなことが分かるか。
- ③問いの答えを見つけるための手掛かりになる箇所を印を付けながら、各自で文章を読む。
- ④見つけた答えを書くとともに、どのようにしてその答えにたどり着いたのかを書く。
- ⑤④で書いた内容について、グループで検討する。

第2時

- ⑥二つ目の問いについて第1時の①~⑤に取り組む。
- ⑦学習を振り返る。

Ⅲ－１（４） 今後の指導に当たって

学力調査結果の分析から明らかになった中学校国語科の課題改善のため
次の点に取り組みましょう。

課題が見られた内容

- 文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをもつこと
- 文章の展開に即して情報を整理し，内容を捉えること
- 相手に分かりやすく伝わる表現について理解すること
- 話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと

取組

授業の中で

- 言語活動を行う際に，学習したことが生かされているかについて，活動の途中で確認したり，よりよく言語活動を行うにはどのようにしたらよいか考えたりする場面を設定する。
- 小学校での学習を踏まえ，生徒自身が目的意識をもち言語活動を行うよう指導する。

日々の取組の中で

- 考えをまとめる際には，自分の考えを支える根拠となる言葉を書きだすなどして明確にしたうえで書くよう指導する。
- 考えを交流する場面において，相手の考えの根拠の明確さなどについて交流するなど，観点を明確にして交流するよう指導する。

Ⅲ－２ 中学校数学

- (1) 成果と課題
- (2) 成果が見られた問題
- (3) 課題が見られた問題の分析
- (4) 今後の指導に当たって

成 果

中学校数学

課 題

成果が見られた内容

○数の集合と四則計算の可能性について理解すること

【関連問題 1】

本県64.9%, 全国62.2% 差+2.7

○平行移動の意味を理解すること

【関連問題 3】

本県84.0%, 全国83.6% 差+0.4

課題が見られた内容

○反比例の表から、 x と y の関係を式で表すこと

【関連問題 4】

本県40.8%, 全国48.9% 差-8.1

○簡単な連立二元一次方程式を解くこと

【関連問題 2】

本県66.9%, 全国70.1% 差-3.2

○事柄が成り立つ理由を説明すること

【関連問題 9(2)】

本県56.5%, 全国59.7% 差-3.2

○結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明すること

【関連問題 7(3)】

本県50.5%, 全国53.3% 差-2.8

Ⅲ－２（２） 成果が見られた問題

中学校数学

成果が見られた問題 1

○ 数の集合と四則計算の可能性について理解すること。

● 1(本県64.9%, 全国62.2% +2.7)

aとbが正の整数のとき、下のアからエまでの計算のうち、計算の結果が正の整数にならないことがあるものはどれですか。正しいものをすべて選びなさい。

- ア $a+b$
- イ $a-b$
- ウ $a \times b$
- エ $a \div b$

【誤答例】

- ・イと解答(10.2%)
- ・エと解答(5.8%)

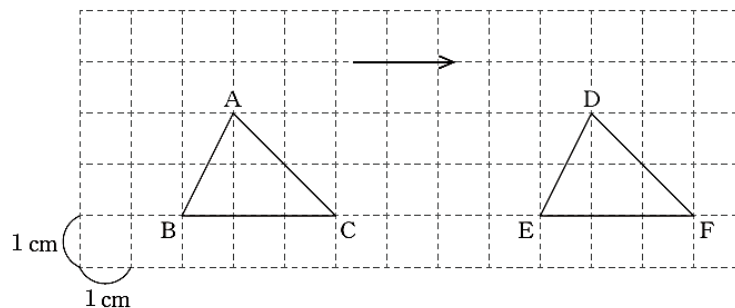
○ aとbの差だけ、aとbの商だけが正の整数にならないことがあると捉えていると考えられる。

成果が見られた問題 2

○ 平行移動の意味を理解すること。

● 3(本県84.0%, 全国83.6% +0.4)

下の図で、 $\triangle DEF$ は、 $\triangle ABC$ を矢印の示す方向に平行移動したものです。 $\triangle DEF$ は、 $\triangle ABC$ を矢印の示す方向に何cm平行移動したのですか。その移動の距離を求めなさい。



【誤答例】(8.1%)

○ 距離を4と間違っ捉えている。点Cと点Eの距離を移動の距離と捉えていると考えられる。

中学校数学

課題

- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること

課題となった問題

● 9(2) (本県56.5%, 全国59.7% -3.2)

予想 連続する5つの奇数の和は、中央の奇数の5倍になる。

上の予想がいつでも成り立つことを説明します。下の【説明】を完成しなさい。

【説明】

n を整数とすると、連続する5つの奇数は、 $2n+1, 2n+3, 2n+5, 2n+7, 2n+9$ と表される。それらの和は、

$$(2n+1) + (2n+3) + (2n+5) + (2n+7) + (2n+9) =$$

【誤答例】

- ① $5(2n+5)$ は求めているが、記述に誤りがある。 (6.1%)
- ② $10n+25$ まで求めているが、記述が十分でない。 (4.1%)
- ③ 無解答 (20.4%)

指導のポイント

○ 誤答について

【誤答例】の①, ②から、式の変形はできているが説明に課題がある。また、③無解答の生徒は、構想を立てることに課題があると考えられる。

○ 指導について

- ・ $10n+25$ という表現にとどまっているものを取り上げ、この式を用いて「中央の奇数の5倍になる」ことを示すためには、「 $5 \times (\text{中央の奇数})$ 」という形の式で表せばよいことから、 $10n+25$ を $5(2n+5)$ と変形できるように指導することが大切である。
- ・ さらに、 $2n+5$ が中央の奇数であることを示す必要があることを、具体的な数の例を基に理解し、「 $2n+5$ は中央の奇数だから、……」という表現を加えるなどして、説明を改善する活動を取り入れることも大切である。
- ・ その際、「連続する5つの奇数の和は、5の倍数になる」という予想の説明の場合には「 $2n+5$ は整数だから、 $5(2n+5)$ は5の倍数である。」という表現になることと比較し、示すべき根拠を明らかにして説明することができるよう指導することが大切である。

Ⅲ－２（４） 今後の指導に当たって

学力調査結果の分析から明らかになった数学科の課題改善のため
次の点に取り組みましょう。

課題となった内容

- 具体的な反比例の表から，変化や対応の様子に着目して，関係を式に表すこと
- 簡単な二元一次方程式を方針に基づいて解くこと
- 目的に応じて式を変形したり，その意味を読み取ったりして，事柄が成り立つ理由を説明すること
- 結論が成り立つための前提を考え，新たな事柄を見だし，説明すること

取組

授業の中で

- 単元など内容や時間のまとまりを通して，数学的活動を通して，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- その際，数学的な見方・考え方を働かせながら，日常の事象や社会事象を数理的に捉え，数学の問題を見だし，問題を自立的，協働的に解決し，学習の過程を振り返り，概念を形成するなどの学習の充実を図る。

日々の取組の中で

- 新たな内容を学習する際は，既習の関連した内容を意図的に取り上げ，学び直しの機会を設定する。
- 学習内容の定着を図るため，生徒の課題や学習意欲等に応じた家庭学習に取り組むよう，働きかける。

Ⅲ－３ 中学校英語

- (１) 成果と課題
- (２) 成果が見られた問題
- (３) 課題が見られた問題の分析
- (４) 今後の指導に当たって

成 果

中学校英語

課 題

成果が見られた内容

○まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解すること

【関連問題 2】

本県71.8%, 全国71.8% 差±0.0

課題が見られた内容

○文の中で適切に接続詞を用いること

【関連問題 9(1)①】

本県74.7%, 全国79.9% 差－5.2

○文の中で適切に接続詞を用いること

【関連問題 9(1)②】

本県52.1%, 全国58.2% 差－6.1

○一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くこと

【関連問題 9(2)①】

本県68.5%, 全国73.6% 差－5.1

○与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くこと

【関連問題 9(3)③】

本県31.7%, 全国37.4% 差－5.7

Ⅲ－3（2） 課題が見られた問題

中学校英語

課題が見られた問題 1

○与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書く問題。

●9(3)③(本県31.7%, 全国37.4%, -5.7%)

①	出身	Australia
---	----	-----------

②	住んでいる都市	Rome
---	---------	------

③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×
---	------------------------	---

【誤答例】○与えられた情報に基づいて解答しているが、一般動詞の否定形や動詞の活用形に誤りがある。

She don't have a pet.

課題が見られた問題 2

○一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書く問題。

●9(2)①(本県68.5%, 全国73.6%, -5.1%)

① <朝の通学路で>

A : I watched a baseball game yesterday. It was so exciting.

B : Oh! (like) baseball?

A : Of course. I love playing and watching baseball.

② <休み明けに教室で>

A : Was your vacation good?

B : Yes. My family and I went to Australia.

(stay) there for two weeks.

A : Wow! Wonderful.

【誤答例】○会話の流れから疑問文を書くことを判断できておらず、基本的な話や文法事項等の理解もできていない。

I like/You are

Ⅲ－３（３） 課題が見られた問題の分析

中学校英語

課題

- 与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くこと。

課題となった問題

- 9(3)③(本県31.7%, 全国37.4%, -5.7%)

次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①	出身	Australia
---	----	-----------

②	住んでいる都市	Rome
---	---------	------

③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×
---	------------------------	---

【誤答例】○与えられた情報に基づいて解答しているが、一般動詞の否定形や動詞の活用形に誤りがある。

She don't have a pet.

指導のポイント

- 誤答について
与えられた情報に基づいて第3者について説明する際に、3人称・単数・現在を表す否定文を正確に書くことができていない。
- 指導について
・日常の授業で、他者紹介をする際などに口頭では頻繁に用いる表現であるが、正確に書くという点で課題がある。
・授業における言語活動と指導の繰り返しにより、文法事項を確実に指導すること、話すことと書くことをつなげるなどの統合的な言語活動を意識的に取り入れていくことが必要である。

Ⅲ－３（４） 今後の指導に当たって

学力調査結果の分析から明らかになった英語科の課題改善のため
次の点に取り組みましょう。

課題となった内容

- 与えられた情報に基づいて第3者について説明する際に、3人称・単数・現在を表す否定文を正確に書くこと
(書くこと, 知識・理解)
- 一般動詞の2人称・単数・現在時制の疑問文を正確に書くこと
(書くこと, 知識・理解)

取組

授業の中で

- 言語活動と指導の繰り返しにより、文法事項を確実に指導すること、話すことと書くことをつなげた統合的な言語活動を意識的に取り入れていくこと

日々の取組の中で

- 授業内容に応じた課題を家庭学習で出し、書くことへ慣れさせること
- 基礎的・基本的事項の確実な定着のため、言語活動を通して繰り返しの学習を行うこと

IV 質問紙調査結果

IV－1 児童・生徒質問紙調査結果①②

IV－2 これまでの調査結果の分析①②③

IV－3 改善に向けて

IV-1 児童・生徒質問紙調査結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質問項目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
主体的・対話的で深い学び の視点からの授業改善	学級の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思っていますか	73.0	74.1	- 1.1	72.3	72.8	- 0.5
	授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか	81.0	82.8	- 1.8	71.5	74.9	- 3.4
	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思っていますか	64.4	65.7	- 1.3	58.0	61.5	- 3.5
	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会[学級活動]で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思っていますか	72.4	74.0	- 1.6	71.3	71.6	- 0.3
	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思っていますか	72.9	73.4	- 0.5	63.5	65.6	- 2.1
	5年生まで（1, 2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思っていますか	76.5	77.7	- 1.2	70.1	74.8	- 4.7
	5年生まで（1,2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	59.0	62.5	- 3.5	47.3	55.8	- 8.5
学習習慣等	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	68.3	71.5	- 3.2	45.1	50.4	- 5.3
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）（1時間以上）	62.3	66.1	- 3.8	67.3	69.8	- 2.5
	読書は好きですか	74.1	75.0	- 0.9	64.2	68.0	- 3.8

IV-1 児童・生徒質問紙調査結果②

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

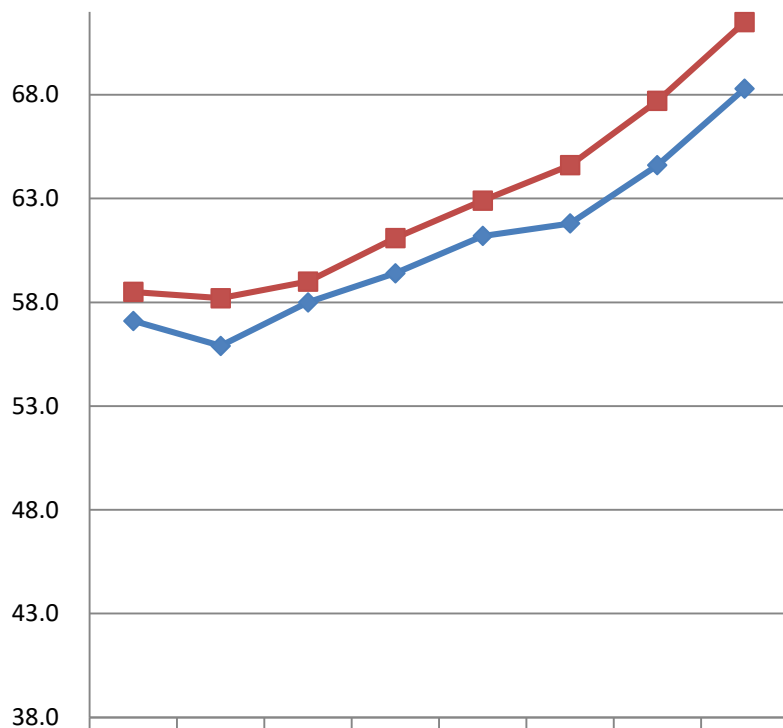
単位(%)

	質問項目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
地域や社会に関 わる活動の状況	今住んでいる地域の行事に参加していますか	71.9	68.0	3.9	48.6	50.6	- 2.0
	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	68.1	68.6	- 0.5	60.3	62.4	- 2.1
	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	76.0	76.1	- 0.1	59.7	59.3	0.4
基本的な生活習慣等	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	79.7	81.4	- 1.7	77.1	78.0	- 0.9
	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	74.9	77.4	- 2.5	74.6	76.4	- 1.8
規範意識、挑戦心、自己有用感等	自分には、よいところがあると思いますか	80.4	81.2	- 0.8	72.5	74.1	- 1.6
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	86.4	86.1	0.3	82.3	81.5	0.8
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	93.2	91.7	1.5	83.0	84.6	- 1.6
	将来の夢や目標を持っていますか	84.7	83.8	0.9	70.5	70.5	0.0
	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	77.9	79.0	- 1.1	66.8	70.3	- 3.5
	学校に行くのは楽しいと思いますか	89.5	85.8	3.7	85.3	81.9	3.4
	人が困っているときは、進んで助けていますか	87.5	87.9	- 0.4	84.1	85.9	- 1.8
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.4	97.1	0.3	95.9	95.1	0.8
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.7	95.2	0.5	95.2	94.3	0.9

IV-2 これまでの調査結果の分析①

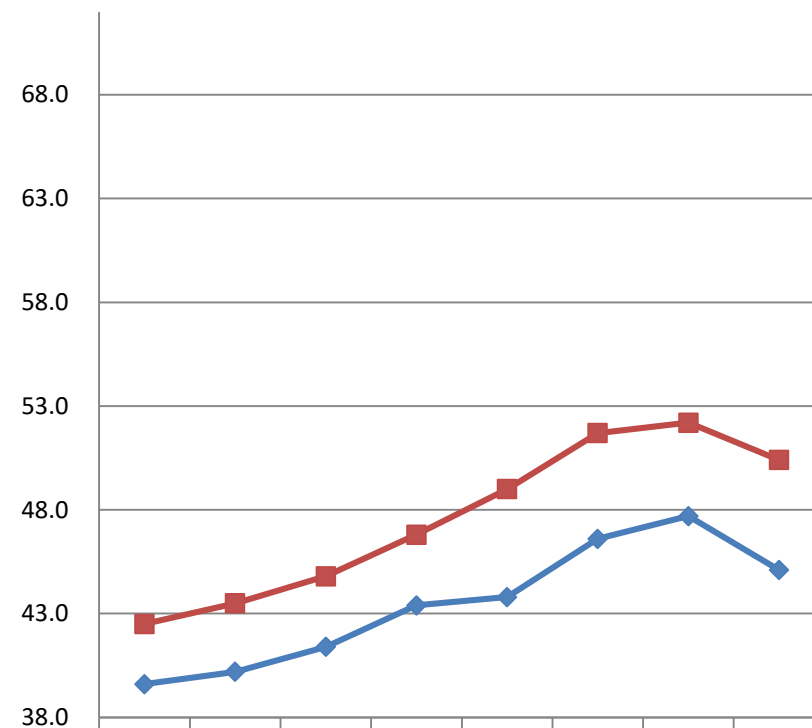
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

している+どちらかといえば、している



◆小(熊本県)	57.1	55.9	58.0	59.4	61.2	61.8	64.6	68.3
■小(全国)	58.5	58.2	59.0	61.1	62.9	64.6	67.7	71.5

小学校 (児童質問紙調査)



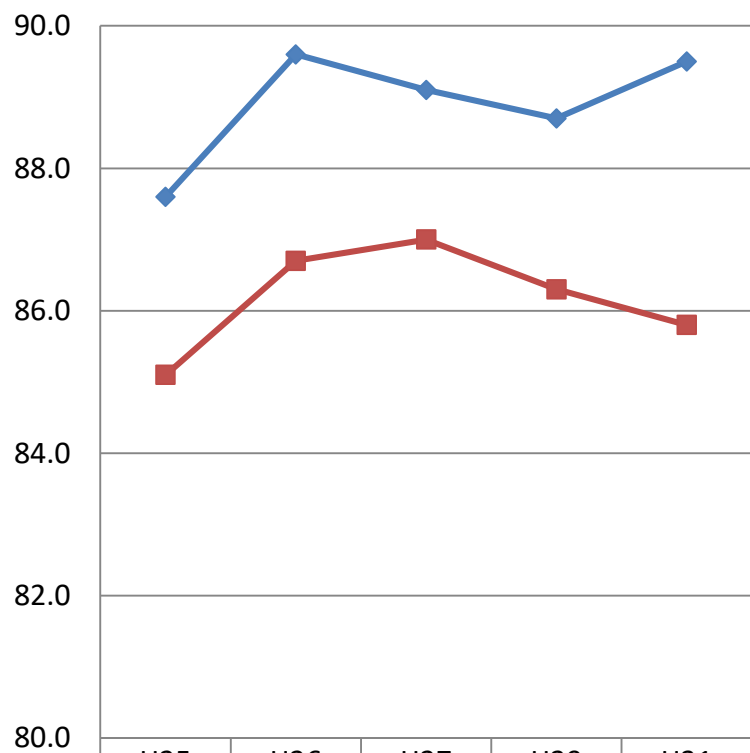
◆中(熊本県)	39.6	40.2	41.4	43.4	43.8	46.6	47.7	45.1
■中(全国)	42.5	43.5	44.8	46.8	49.0	51.7	52.2	50.4

中学校 (生徒質問紙調査)

IV-2 これまでの調査結果の分析②

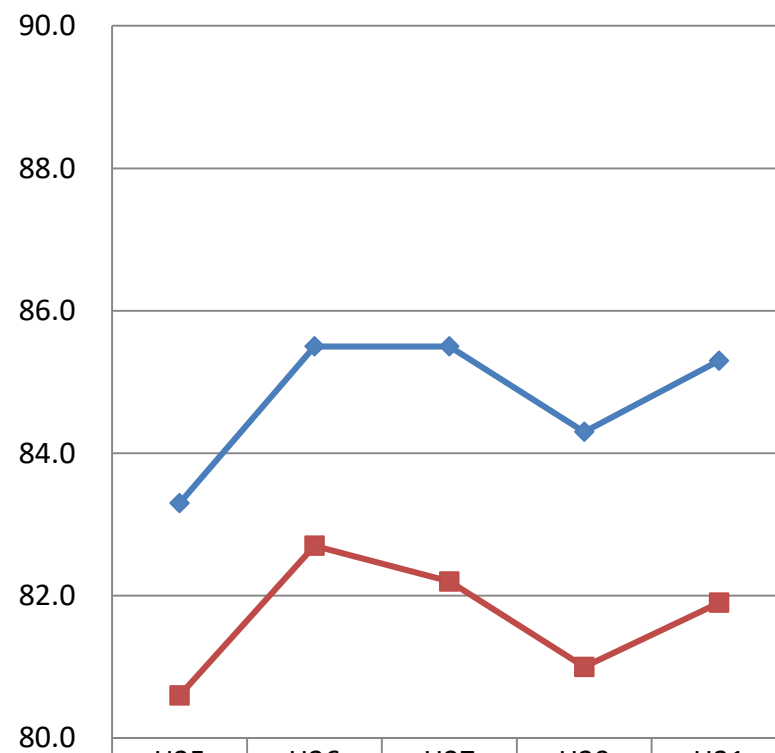
学校に行くのは楽しいと思いますか

「当てはまる」 + 「どちらかといえば、当てはまる」



◆ 小(熊本県)	87.6	89.6	89.1	88.7	89.5
■ 小(全国)	85.1	86.7	87.0	86.3	85.8

小学校 (児童質問紙調査)



◆ 中(熊本県)	83.3	85.5	85.5	84.3	85.3
■ 中(全国)	80.6	82.7	82.2	81.0	81.9

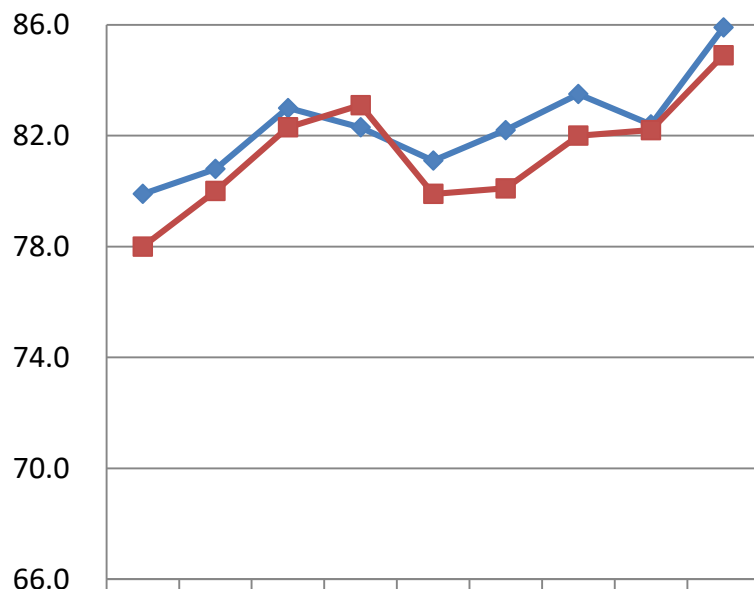
中学校 (生徒質問紙調査)

IV-2 これまでの調査結果の分析③

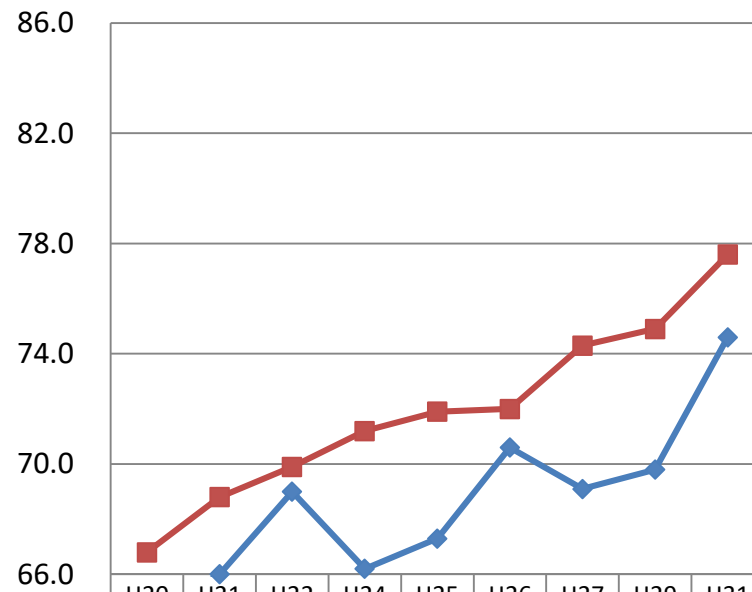
国語の授業の内容はよく分かりますか

「当てはまる」 + 「どちらかといえば、当てはまる」

国語



小学校（児童質問紙調査）



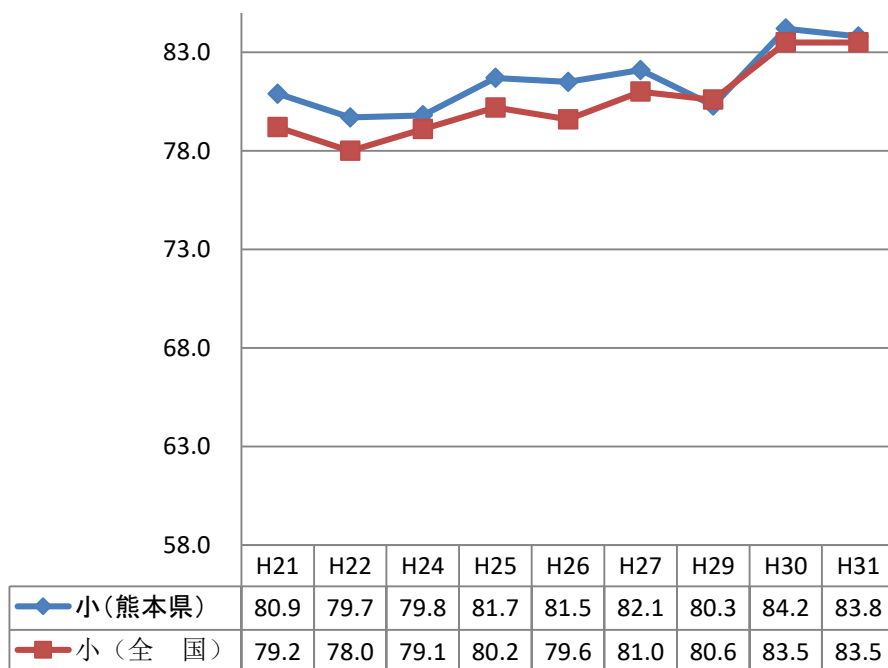
中学校（生徒質問紙調査）

IV-2 これまでの調査結果の分析④

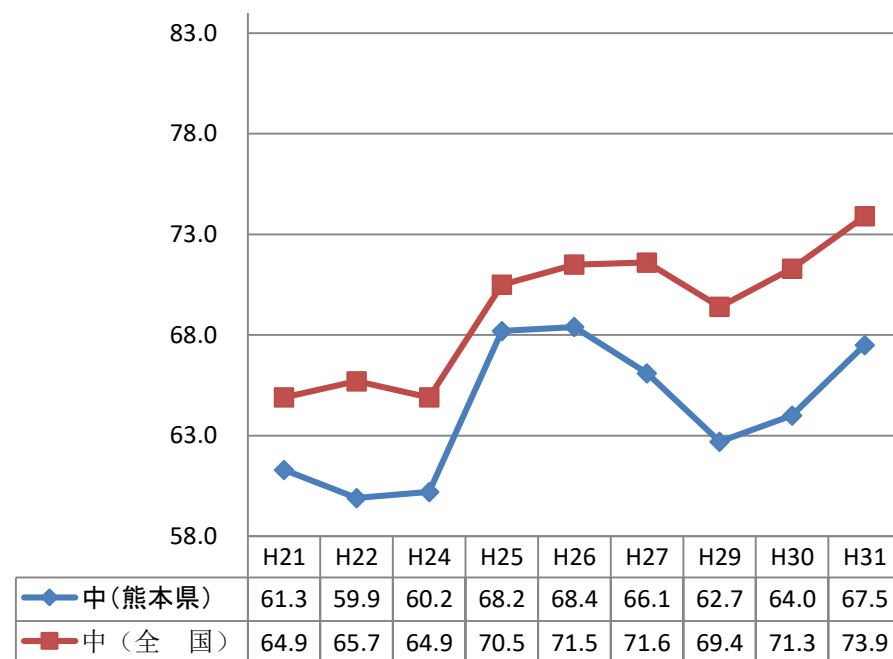
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか

「当てはまる」 + 「どちらかといえば、当てはまる」

算数・数学



小学校 (児童質問紙調査)



中学校 (生徒質問紙調査)

IV-3 改善に向けて

児童・生徒質問紙調査から

- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」や、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むこと」に課題があります。子供たちが**学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習を振り返り、次の学習につなげることが**できるような授業改善を図りましょう。
- 「家で自分で計画を立てて勉強すること」や「家庭での学習時間」については、課題が改善されない状況が続いています。**子供たち一人一人の学び（つまずきなど）を理解し、個に応じた言葉かけを行ったり、子供が取り組んだ課題を認めたりする**など個に応じたきめ細かな支援を行いましょう。
- 「授業の内容はよく分かりますか」の項目に課題があります。子供たちが、日々の授業において、**「よく分かった」と自らの伸びを実感することができるように、振り返りの場を工夫**しましょう。
- 「自分には、よいところがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」といった意識を高めるためにも、**すべての教育活動において、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標を踏まえた教育の実現**を目指しましょう。
- 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」などの子供たちの意欲を育むため、日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知ったり、異なる文化をもつ人々との交流などを体験したりする活動を積極的に取り入れましょう。

IV 質問紙調査結果

IV - 4 学校質問紙調査結果①②

IV - 5 調査結果の分析①②

IV - 6 改善に向けて

IV-4 学校質問紙調査結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。単位(%)

	質問項目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
カリキュラム・マネジメント	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	97.0	95.1	1.9	90.9	91.3	-0.4
	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	95.0	95.4	-0.4	95.8	93.4	2.4
	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	93.2	96.4	-3.2	90.3	86.9	3.4
	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	98.5	95.3	3.2	96.9	93.7	3.2
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	86.1	85.5	0.6	83.0	82.6	0.4
	調査対象学年の児童生徒に対して、総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	91.5	89.3	2.2	83.0	89.1	-6.1
	調査対象学年の児童生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級会[学級活動]で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか	94.7	94.5	0.2	93.3	93.2	0.1
	調査対象学年の児童生徒に対して、特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導を工夫していますか	97.6	96.7	0.9	98.1	92.6	5.5
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	91.2	89.3	1.9	86.0	88.0	-2.0
家庭学習	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(教科共通)	91.5	92.2	-0.7	88.5	87.0	1.5
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(教科共通)	97.4	95.5	1.9	93.3	92.3	1.0

IV-4 学校質問紙調査結果②

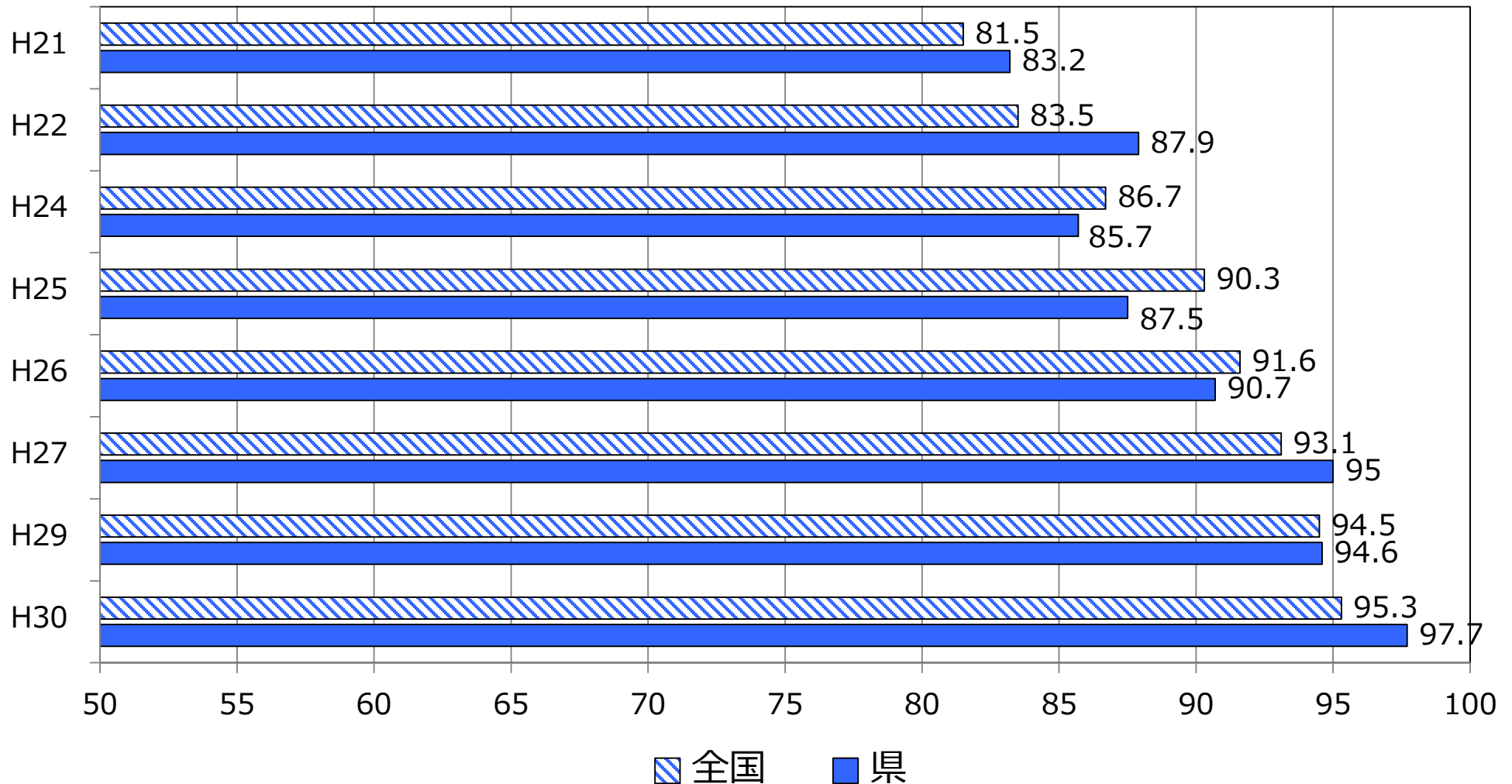
数値は、選択肢「よく行った」「どちらかといえば、行った」などの肯定的評価の合計を示す。 単位(%)

	質問項目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
自己有用感等 挑戦心、達成感、規範意識	調査対象学年の児童生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか	92.6	91.1	1.5	82.4	89.3	-6.9
	調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	88.0	87.7	0.3	89.7	94.1	-4.4
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	88.8	83.2	5.6	98.1	98.6	-0.5
	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童生徒に対する授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか	97.9	95.1	2.8	95.2	92.6	2.6
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか	98.6	98.8	-0.2	98.2	98.6	-0.4
教職員の資質能力の向上	校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	99.7	99.3	0.4	99.4	98.6	0.8
	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか（「1.ほぼ毎日」の割合）	80.9	71.8	9.1	53.9	48.8	5.1
小中連携	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	66.4	65.0	1.4	77.0	68.0	9.0
	平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか	58.9	60.6	-1.7	61.8	60.0	1.8
その他	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	86.8	89.6	-2.8	85.4	86.4	-1.0
	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）	90.6	91.2	-0.6	84.3	87.5	-3.2

IV-5 調査結果の分析①-1

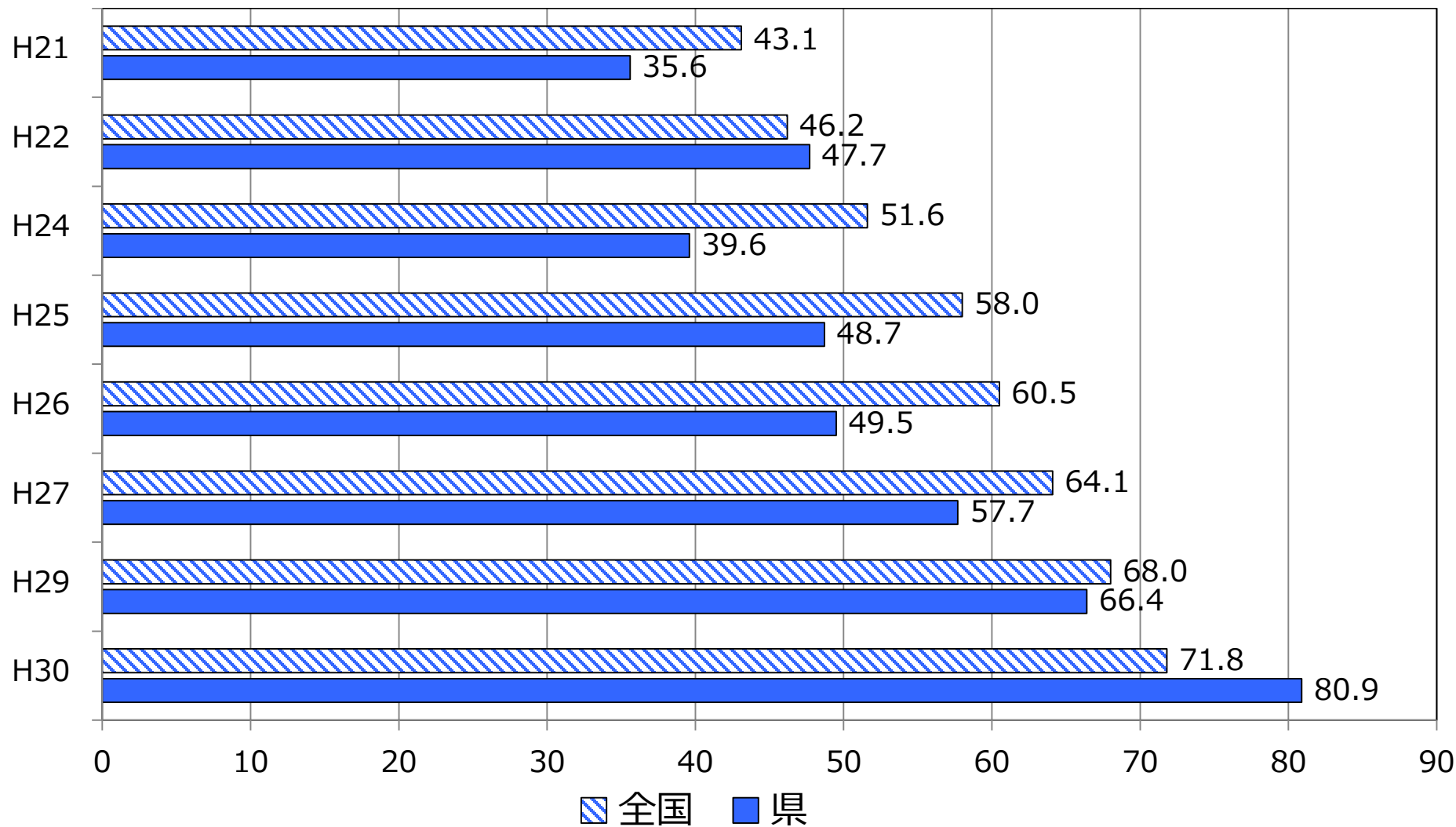
【小学校】「校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか」

数値は、選択肢「ほぼ毎日」「週に2～3回程度」の肯定的評価の合計を示す。



IV-5 調査結果の分析①-2

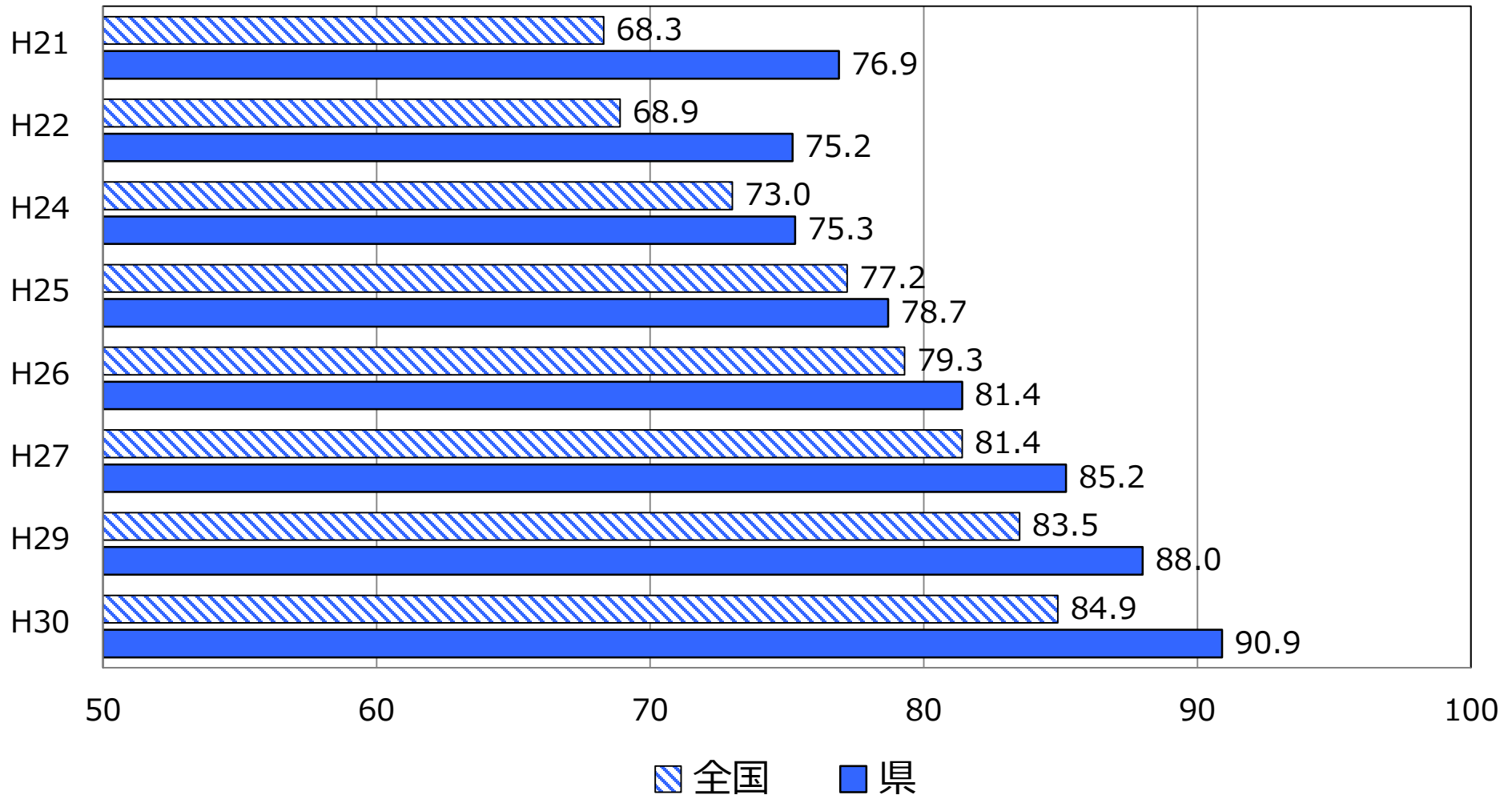
【小学校】「校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか」
数値は、選択肢「ほぼ毎日」の肯定的評価の合計を示す。



IV-5 調査結果の分析②-1

【中学校】「校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか」

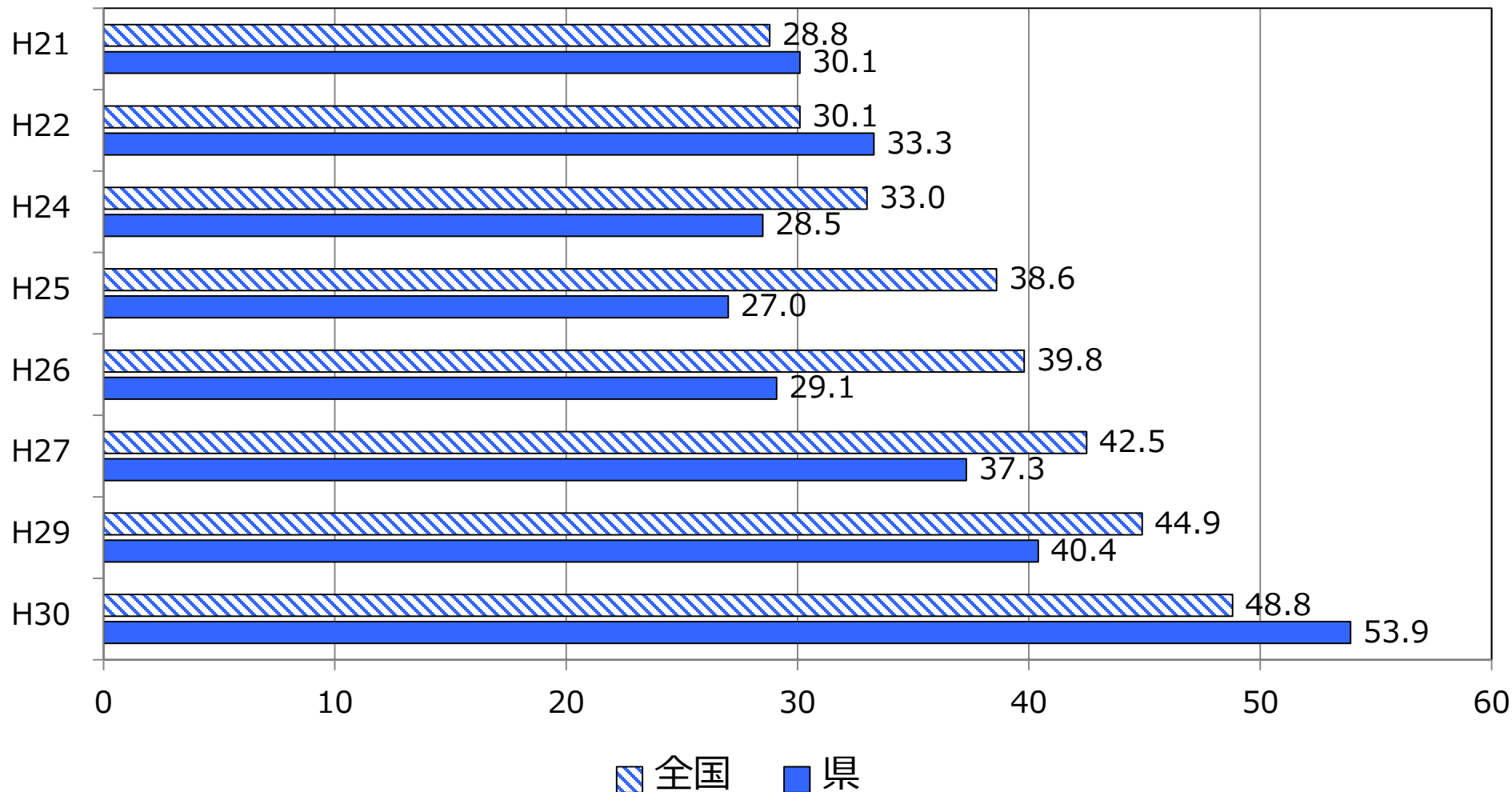
数値は、選択肢「ほぼ毎日」「週に2～3回程度」の肯定的評価の合計を示す。



IV-5 調査結果の分析②-2

【中学校】「校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか」

数値は、選択肢「ほぼ毎日」の肯定的評価の合計を示す。



学校質問紙から

- 指導計画の作成に当たっては、学校教育目標を踏まえた**横断的な視点**で、教育内容を組織的に配列している学校が増えています。教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、**地域等の外部の資源も含めて活用しながら**効果的に組み合わせ、**教育活動の質の向上**に努めましょう。
- 総合的な学習の時間における探究の過程を意識した指導に課題があります。児童生徒が学習活動に主体的・意欲的に取り組む時間となるよう、**課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導**を心がけましょう。
- 家庭学習について、具体例を挙げながら学習方法等を教えている学校が増えています。**家庭と連携を図りながら**、ノートにコメントを書くなど**組織で見守り**、児童生徒が主体的・計画的に取り組む家庭学習習慣の形成につなげましょう。
- 児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）の取組について、児童生徒の認識とずれがあります。**児童生徒が認め・褒められていることを実感**できるような**具体的な言葉かけ**をしましょう。
- 校内の授業を**毎日**見て回っている校長が増えています。今後、授業の見回りはもとより、授業後に**授業者に対してコメント**を返したり、必要に応じて**指導助言**等を行ったりしましょう。

V 学力向上に向けた取組

